

# 編 集 後 記

▼足立区の橋本敏明さんは、東京都教委がすでに2回の一斉学力テストを実施し、その成績をインターネットのホームページに公表して、子どもたちに「足立は23区中いちばんバカの学校」と言わせている状況を報告しています。区の教育委員会はその下位から上昇をねらって、5000万円もかけて、業者による学力テストを強制して、学校を競わせている有様を学校選択制の導入と併せて明らかにします。

▼宮下聡さんは、君が代斉唱時の声量を調べさせて著名になった東京・町田市の教育委員会の下で、学校教育が市場原理の導入でどのように理不尽な扱いを受けているかを、活写しています。東京の流れが新潟にも来たならば、恐怖。

▼新潟県においても県教委主導の全県「学力調査」が初めて一斉に行われました。その間の事情を片岡弘さんがまとめています。資料とともにお読みいただければありがたい。

▼県教委の「学力調査」の係りにインタビューと聖籠町教育長に聞いた記事は、この「調査」がもたらす波紋を予想させます。木村哲郎さんが、中学校の現場から「調査」が持つ問題を提起してくれました。今回は小学校は目標正答率

を超えたので特に探求しませんでした。

▼小林昭三さんは、二つの国際的「学力調査」のなかの日本の位置や問題点を精緻に分析・検証します。学力観の相違が調査問題に現れていて興味が尽きません。

▼本田敏彦さんは、学力観を教育学者の諸説を紹介しつつ、いまの「学力調査」の背景を解明。

▼八木三男さんは、県教委が公表した「学力調査」の結果について、全面的に分析を加えてこの問題を考える土台を明らかにしています。「調査問題」の公開なしに、学校やその関係者だけで「調査」結果を扱うことの不当性をつきます。

▼憲法・教基法「改正」問題に対する会員からのご意見を募りましたら、多くの方々が応えてくださって感謝申し上げます。どのご意見も戦後60年の歴史を背負った、貴重なものです。

▼菊池一郎さんは、佐渡・羽茂高校の校庭に憲法・教育基本法の精神を刻んだ記念碑を建てた事柄を高校生に語りかける形で、訴えています。記念碑が歴史の道しるべにと期待します。

▼小島寿夫さんの論考は、子どもたちの憲法に対する意識調査を紹介して、時宜に適した問題提起をしています。

▼「なみちちゃん」と『はかせ』は、八木三男さんの随想です。幼い子どもにも自身の持つ最高の知識をどう伝えようかと苦勞する姿勢に学びされます。教えるとは何かを考えさせます。

▼立石由美さんは、ドイツ、オーストリア、チエコ、ハンガリーの旅で自身の歴史の知識の弱さを痛感したこと。ドイツ人が自国の負の歴史に向き合っている姿に感動したなど面白い。

▼内山雄平さんは、ベトナムの若い人達が農業を情熱を持って勉強している熱気に打たれます。

▼山本勝一さんは、佐渡・羽茂高校・赤泊分校における演劇活動を詳細に感動的に描写して、改めてその教育的役割を認識させてくれます。

(内山・吉田)

## にいがたの教育情報 NO.82

2005年6月25日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 長崎 明

〒951-8116 新潟市東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX(025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

印刷所・中央印刷さおびす

本誌内容の無断転載を禁じます。